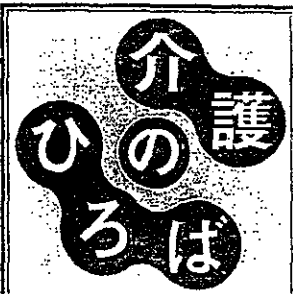


倉敷中央高等学校

【岡山県】

ヘルパー養成に取り組む岡山県内の高校



その歴史

1956(昭和31)年、長野県上田市が始めた「家庭看護婦派遣事業」がルーツ。その後、全国の自治体が「家庭福祉員制度」などの名前で派遣事業を行うようになった。
62年には国の家庭福祉員制度がスタート。低所得の高齢者に、福祉による措置として「身の回りの世話」「家事援助」「相談助言」を行っていたが、社会の高齢化とともに、派遣対象が拡大され、民間事業者の参入も目立つようになってきた。

正式にホームヘルパーという言葉が登場したのは、国の高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略(ゴールドプラン)が動き出した後の90(平成2)年。その翌年から国の養成研修システムが始まった。

介護福祉士との違い

介護福祉士は、寝たきりのお年寄りの自立を助けるため、食事や入浴、排泄、着替えなど生活の支

知っていますか 「ホームヘルパー」

援を行う。1級ヘルパーの養成カリキュラムは重なるところが多く、仕事の内容もほぼ同じ。明確な違いはヘルパーが養成研修の修了を認定された「職名」なのに対し、介護福祉士は「国家資格」であること。介護福祉士は、ヘルパー養成研修を修了しなくても1級ヘルパーとみなされ、ケアプランを作成するケアマネジャーになるための資格の一つにもなっている。

在宅介護の担い手として期待がかかるホームヘルパー。高校でもホームヘルパー1級や介護福祉士の養成カリキュラムを授業に取り入れられる学校が人気を集め、岡山県内では公私立合わせて十三校がヘルパー養成機関に指定され、人材を供給している。また、指定校以外でも地元自治体のヘルパー養成と連携する学校が現れ、地域での介護支援業務への参加が深まってきた。介護福祉士を養成する人材育成に取り組む高校のヘルパー養成現場をレポートする。

知識を求めたい

「何でもないよなシニアの強も、体の弱ったお年寄りに対するあれだけの知識は、五月から始まる施設実習に備えたベドメキニングの復習まで、練習型から家庭用まで、様々なタイプのベッドを前下、生体たしが二人一組でシーツや毛布を一枚一枚セッティングして、出口講習で「先生、学校の前でシーツ活動をするお年寄りに対して、この仕事は僕に向いていると思っただけ。介護保険のことばかりだよ、分かるけれど、介護の現場はこれ以上、介護の質が問われると思う。卒業後は進学もして知識を深めたい」と目を輝かせる。

増える指定校

岡山県教委は、福祉教育の必要性を強調した岡山県校教育研究協議会(の各甲一九〇)を呼び、九六年に公立として初めて倉敷中央に福祉科を設置し

福祉基盤整備へ地域と連携

た。所定のカリキュラムを修了すれば、ホームヘルパー1級の修了証を手にすることにも、国家資格である介護福祉士の受験資格が得られる。

「当初は福祉の専門教員も教科書もない。設備については現場サイドから大変な反応があった」と当時を知る関係者は振り返る。

しかし、ふたを開けてみると、初年度の推薦入試は実質四・七五倍の高倍率。この難関をへりぬけた一級生は、平均合格率五割という介護福祉士の国家試験に三十九人中三十五人がパスし、合格率八九・七％という好成绩を挙げた。本多

浮波福祉科長は「福祉科を待ち望んで入学した生徒が多々、目的意識がしっかりしていた」といっている。

このことを原に、ヘルパー養成カリキュラムを導入する高校が増加。四月現在、県からヘルパー養成機関の

ホームヘルパー養成研修のしくみ

- 1級修了者の資質の維持・向上
- 2級(230時間の講習)
 - 基幹的ヘルパーの養成
 - 2級終了者が対象
- 2級(約30時間の講習)
 - ホームヘルプサービスの基本
 - 研修講座、受講希望が最も多い
 - 常勤ヘルパーの最低ライン
 - 誰でも受講できる
- 3級(50時間の講習)
 - ホームヘルプサービスの入門編
 - 家事援助中心
 - 誰でも受講できる

住民の意識改革

指定を受けている公立高校は岡山県立立花中学校と岡山市立後楽館(岡山市天神町)の計八校。私立も、八九年に県内のトップを切った社会福祉科をつつたベル学園(岡山市下伊福西町)を含め、計五校が指定されている。

実習へ理解を

カリキュラムを修了するためには、施設実習やホームヘルプ事業の実施主体で、昨年度までは市町村、介護保険導入により事業者間の競争意識が高まり、実習生の存在に施設のマナーイメージになるなど敬遠されるケースもあるという。

赤坂町が、「一世帯一ヘルパー」を掲げ、介護保険スタートと同時に開設した高齢者福祉研修施設「まなびのその華」(ほなづ)学園も、町内の小・中学校と連携し、高校生も含めてヘルパー講習の実施を計画している。高塚延子学園長(中園短大教授)は「老人が尊敬される人として尊重される福祉を定着させるためには、教育を通じて住民の意識改革を図ってほしい。中高生の時期にヘルパー教育を通じて福祉の心を育てたい」と力を込める。



機関だったが、今年四月には百二十五機関が増え、五年で約二・五倍。数年前からヘルパー養成の急務で実習を手かかない切れない状況が続く。その影響が高校にも現れている。

Q 病院から退院する夫が生活しやすいよう、自宅に福祉器具をそろえたいのですが。

A ケアマネジャー(介護支援専門員)に相談すると、住宅事情にあった器具を選んでもくれる。車いす、介護用の特殊寝台、床ずれ防止マット、移動用リフトなどのレンタル料、腰掛け便座、入浴用のいすなどの購入費はいずれも介護保険からの給付が認められており、自己負担は費用の1割でよい。ただしいったん全額を支払った後、保険給付額分を請求する償還払いとなる。また、ふる湯や館下の手すりの取り付けなどの住宅改

介護ほけん Q&A

修も介護保険の給付対象となっている。

Q ホームヘルプサービスの「滞在型」と「巡回型」の違いは。

A 「滞在型」は1~3時間滞在し、身の回りの世話をす。巡回型は、30分程度の短時間でおむつ交換などをす。また、サービスの種類によって、洗濯、掃除などの「家事援助」と、体を拭いたり排せつや世話をす「身体介護」、双方の間に位置する「複合型」に分けられている。介護保険からヘルパー派遣事業者に支払われる介護報酬は30分刻みで、家事援助より身体介護の単価が高く設定されている。

学校に広がる福祉教育

高齢社会や介護保険制度発足に伴い

高齢社会の進む介護保険制度の普及に伴い、短大や高校の福祉専門職養成課程が改めて脚光を浴びている。県内では、四つの短大に介護福祉士養成課程があり、新年度には川崎医療短大（倉敷市）が介護福祉科を新設する。高校では公立三校に国家試験受験資格が得られる福祉科が設置されており、普通科や総合学科の生徒が福祉系高校も計十五校に広がる。高尾化率の高い農山村では、ホームヘルパー養成で地域も支援、「福祉」は教育面でも重みを増してきた。

（土岐 直彦）

介護福祉士やヘルパー養成



ほかの生徒に見守られるなか、男女三人であたる介助の実習。倉敷市西番井の倉敷中央高校で

おかやま
2000

●男子も懸命
「そこは、こうした方が。教諭の指導に男学生徒がじっと聴き入る。臨床患者の褒めり介助。男女の生徒が三人のグループを組んで実習に励んでいた。倉敷市西番井、倉敷中央高校。一九九六年度、県内公立高の教育課程で初めて福祉科が設けられた。介護福祉士受験資格とホームヘルパー二級が取得できる。

△メモ 高校では、介護福祉教育を採り入れている学校では、福祉の一般教養や専門に学ぶのが福祉科。国家試験受験資格を得るには社会福祉の基礎、制度、介護の専門科目三十八単位の履修が必要だ。一方、福祉科は必修科目三十八単位の履修が必要だ。一方、福祉科は必修科目三十八単位の履修が必要だ。

普通科でも教養として

福祉科の本多淳孝校長は「作業のオーブンスクールでは、県内各地から男子の見学者が目立った」と、きんぎょ・系約で選抜科目に福祉科が増える見通しを示す。同様の課程はヘルパー養成や福祉に関する半園（岡山市）、美術（津山市）にある。

●福祉の心
公立高尾校通商や家庭科（和歌山）は、普通科の特色に何を求めるかを父母らにアンケートし、「福祉教育」の要請が

町が新たな福祉教育を採り入れた。

●就職も力
短大の介護福祉士養成課程は、一九九年度、県立三校に開設された。五校目となる川崎医療短大は、風俗・文化の介護福祉士養成課程を新設。商業、体育などと同様に福祉科の一つに位置づけられ、福祉教育推進も加速していった。

ぜひ情報提供を

容疑男性行方つかめず

富子自の市街に住んでいた無職男性（五十歳）が、三月に起きた殺害の犠牲者を取ったが、行方は十五日、発見はつかめていない。事件の年月十五日前一時半が通った。岡山県風化が危なげられる中、捜査本部は、情報の提供を呼びかける新たな看板を設け、金銭した部屋、腰の差を結び、焼く跡から、近々に住

朝日 H13. 2.16

殺人放火事件で、現行犯容疑者の男性を逮捕した。この男性の行方や事件当時の不審点、捜査本部の捜査提供の協力をお願いします。

岡山東警察署からR高島駅前

倉敷の2農協合併予備契約

農協約六千人、貯蓄金約九百六十億円で、貯蓄性県内三位になる。阪本店は

教育21

岡山
II地域を変える

9

県内で唯一の福祉科がある県立倉敷中央高校(倉敷市西富井)には将来、医療福祉分野で活躍する生徒が多く学んでおり、ボランティア活動も盛んだ。県内の中学校では近年、カリキュラムやクラブ活動にボランティアを取り入れる学校は多いが、倉敷中央高では高齢者介護や障害児の支援など、二十年以上も前から幅広い活動を行い、すっかり地域に根付いている。

県立倉敷中央高校 ボランティア20年の実績

交流重ね福祉を体験

情報コーナーには各種のボランティア募集の案内が掲示され、生徒が自分で選んでいる。その中の一つの「倉敷青年ボランティアのつどい」(中野敏士世話人代表)は、障害を持つ子供との交流を支援する組織で、同校からは毎年十人前後が参加。福祉科三年の大森節子さん(18)は「いろいろな人と触れ合えるのが楽しい」と言い、卒業生の会社生や先輩、社会人も一緒に「自然に責任感が生まれる」と話す。

特別養護老人ホーム「ますみ荘」(倉敷市巾島)とも一九七三年のホーム開設以来、イベントなどを通じて交流を続けている。お年寄りが施設外の人と触れ合う機会に乏しいことを知っ



た同校の弁論部有志が、施設を訪ねてお年寄りの話を夏休み中も足を運んでいた。この交流が縁で、現在でも福祉科の実習施設として利用させてもらったり、家庭科を学ぶ生徒たちが年一回、介助ボランティアに訪れたりしている。「少しでも役に立たい」との願いから、生徒たちが手縫いの車いす用足台カバーやぞつきんを持参することもある。長崎健・施設長は「どの生徒からも、福祉と真剣にかかわろうという熱意が感じられる」と目を細める。

諸活動 着実に根付く

け、階段など障害物が多い校内に約八十人のお年寄りを無事に迎えた。

本田淳宏福祉科長は「生徒たちが経験しているのは、授業だけでは分からないボランティアの『本質』にかかわる内容だ」と言う。強制や奉仕でなく、お互いに足りない部分を補い合える関係。「生徒たちはそれが地域社会の幸福につながるのを感じ、着実に成長している」と手ごたえを感じている。

浮田信明教頭は「四学科の特質を生かして気軽にボランティアをしている。学校の伝統として大切に受け継いでほしい」と活動を見守っている。

×七

毎年九月の文化祭「白ゆり祭」には、各施設のお年寄りを招いて「ウエルフェアデー(福祉の日)」を開催している。県内高校では唯一のイベントで、昨年も百人を超える生徒が参加。車いすを押す介助講習を受

千七十人の在校生のうち、女子が千四十一人で男子は千二十九人。職員室前の廊下にある「ボランティア

昨年「ウエルフェアデー」で招待したお年寄りに校内のイベントを案内する生徒たち(県立倉敷中央高提供)

県立倉敷中央高校 一九四八年、定時制の農業・家政科を持つ県青年師範学校付属校として開校。全日制普通科に改編後、六五年に現在の名称に。六八年衛生看護科、八四年家政科、九六年に福祉科を開設した。